

奈良県立医科大学は、昭和 20 年に設立され、本年は開学 80 周年という節目を迎えるとともに、4 月には古都奈良らしいデザインを採り入れた新キャンパスが開校します。豊かな人間性に基づいた高い倫理観と旺盛な科学的探究心を備えた医療人を育成すると同時に、絶えまない日々の研究によって看護学の質を高め、その発展に貢献することが益々期待されております。

看護学の本質的な中核をおさえつつ、新しい知見を探索して緻密な検証によって発展させ、看護実践に生かしていくことは、必要不可欠であると同時に不断の努力の賜物でもあります。そうした積み重ねの成果として、本ジャーナルに論文を掲載された先生方の御尽力に、心から敬意を表します。

看護学科の多忙な実習や演習と研究との両立には、多くのエネルギーを費やしますが、貴重なプラクティカルな結果を、次の看護に適用できるという大きな有益性があります。看護研究の成果は、既存の看護に新しい科学的知見を入れることで看護の質を向上させ、看護の対象や地域社会における健康課題の解決にもつながるものです。

近年の新型コロナウイルス感染症のように、健康状態だけではなく社会活動の停滞に伴う急激な環境変化によって、すべての人が甚大な影響を受けるといった、日々刻々変わりゆく状況下において、迅速に状況を分析して適応できる医療スキルが求められています。このような社会の要望からも、看護研究の必要性がさらに拡大したと言えると思います。

研究から得られた新たな知見や技術を、組織を超えた協働において活用し、将来を見据えて今できることを明らかにし、改善を重ねていくことの重要性が、社会全体の認識となりました。今後の研究活動は、さらに加速すると思われれます。

春の開花と同時にスタートする新キャンパスから研究も開花・発展し、多くの知見を発信できることと思います。今後の研究のさらなる飛躍を期待しております。

令和 7 年 3 月

看護研究ジャーナル編集委員

澤見 一枝